



除草機を押す子どもたち。高島町立和田小学校の有機米づくり

## ▼学校長の立場から 学校給食の一割自給から 六年間の食農全体計画へ

山形県米沢市立三沢西部小学校長 伊澤 良治

二〇〇五年七月九日（土）、東京都江東区の東京ビッグサイト一〇一会議室にて「地域に根ざした食農教育ネットワーク」設立記念フォーラムが開催された（主催は同フォーラム実行委員会と農文協）。全国から教員、栄養士、研究者、農家、自治体職員、企業の食育担当者、食育コーディネーターなど、会場いっぱいの一〇〇名が参加した。

このフォーラムでは、学校（校長、学級担任、学校栄養職員）、父母、地域それぞれの立場から、「地域に根ざした、土のにおいのする食育」の五つの先進事例が報告され、注目された。（以下、文責編集部）

高島町立二井宿小学校に教頭として赴任したとき、最初の職員会議で「食と農の教育に取り組もう」と提案したら女の先生から「私は花粉症ですから、できません」、若い男の先生からは「土は嫌いです」といわれてしまった。それでも何とか説得して、最初の目標として、各学年の畑作の目標を学校給食の一〇％を自給することを設定した。一割自給というもののすごく大変なようだが、たとえば一〇〇人規模の学校で、一年間に学校給食で使うダイコンの量は一〇kgほど、ダイコン一本の重さは約一kgだから、一本つくればいい。食材を給食室に納入したら、業者として代金を

支払う。代金は各級で自主管理させ、使い道も子どもたちが自身に考えさせた。それが生活リアリズムの学習になった。前任の高島町立和田小学校に校長として赴任したとき、先生方は「伊澤が校長としてくるなら長靴を買わなければならぬ」と言っていた。そうだった。一反の畑を借りて、各学年に割り振り、野菜を栽培した。しかし、そこらからどう授業を展開したらいいかわからない。そこで学年ごとに、米づくり体験学習、品目栽培学習、体験学習と知的学習の関連の三本柱をセットにして計画した。たとえば米づくりは三年から六年まで取り組んだが、それを通して、三、四年は田んぼやその周辺の動植物、五、六年は有機米と普通米を比較しながら地域の農業の未来について考える、という目標を立てた。

しかし、目標や学習内容、時数が決まっても、先生方には農業についての経験がないという不安があった。地域には先生たちの応援団がたくさんいる。保護者会に協力を求め、さらに各学年に体験学習をバックアップする「農業委員会」をつ

くった。そうしたなかで、地域が見えてきて、固有な言葉で地域の人を語れるようになった。そのなかで、縄



「地域に根ざした食農教育ネットワーク」設立記念フォーラムの様子

## 「地域に根ざした食農教育ネットワーク」発足！

食と農を軸に、子どもたちの生きる力を育み、活力ある地域をつくるネットワーク組織

今年七月に設立（略称・食農ネット）。教師、栄養士、父母、農家、行政など、約四五〇名が参加（代表委員・嶋野道弘）。会員はホームページ、メールマガジンや雑誌「食農教育」などによって情報（教材、物財の提供・コンクール・講師の派遣など）の受発信、イベント、研究会など交流活動を展開。

★正会員の条件は「食農教育」の定期購読者であること。メールマガジン購読だけの（メルマガ会員）も可能。詳しくは下記ホームページから直接農文協へ。



<http://syokunou.net>

## 食育の学習・交流拠点 農文協・信州つがいけ 食農学習センター

長野県北安曇郡小谷村  
杵池高原 爽やかな高原の自然のなかで食、農、自然を学ぶ宿泊施設。食と農に関する図書、パソコン、データーベースも完備。お問い合わせは農文協へ。



## 先進事例に学ぶ食育の推進①

## 学校を核にして地域が元気になる

## ▼担任の教師の立場から

食と農の体験で  
言葉の世界が広がる

東京都狛江市立緑野小学校教諭 田揚 江里



1年生が栽培したゴマと2年生が栽培した米で五平もちをつくる。狛江市立狛江第二小学校で

東京都区内のコンクリートとアスファルトばかりの学校でサケを飼ったり、豆腐をつくったりしてきた。子どもが主体となった学びは、本物と出会うところから始まる。産卵直前のサケを新潟の村山から取り寄せて触れてみた。子どもたちは口をあけてみたり、鼻の穴を見たりする。子どもたちはサケの舌がザラザラで牙もあり、獺猛な魚であることを知った。大豆をテーマにした学習では、お豆腐屋さんにきてもらい、一度に三六丁の豆腐ができる木箱を見せていただいたこと

から、子どもたちの豆腐屋さん通いははじまった。現在勤務している狛江市は都心に比べて、まだ農地が残っている。狛江市立狛江第二小学校では、一年生の生活科でゴマを育て、五平餅をつくった。この授業ではお母さんやおばあちゃんに手伝ってもらった。ギヤラリーからいろいろなことを言わせるのではなく、授業をいっしょにつくり、学ぶと、すごいエネルギーを発揮する。

食農教育は知識と生活を結びつける役割を持つ。算数では成長を記録することにかかわって長さを、収穫にかかわって足し算や掛け算などすべてが入ってくる。国語では「こまをする」「石臼をひく」など体験をとおして言葉が広がっていく。

## ▼学校栄養職員の立場から

## 地場産学校給食を生かし、「食べるまでの物語」を伝える

埼玉県新座市立西堀小学校・学校栄養職員 猪瀬 里美

いま、給食にビワを出す。済みの食品を温めて食べた。子どもたちはそれが何。ついでには、人間の食にか。それは大人の責任で、調理。かわる工夫や知恵は伝わら

ない。

新座市は畑が多いので、自転車でも入りまわって、これはという農家に学校給食

に出してくれるようにお願いした。農家と話す勉強になることが多い。たとえば、ホウレンソウを栽培する農家からは「収穫するより枯葉を取るのが手間」という話を聞いた。そこで、子どもたちにインタビューに行かせて、「ホウレンソウができるまで」を壁新聞で報告させた。

(次頁に続く)

## 食農教育

年7回(隔月十増刊号)

定価800円、年間5600円



いのちのつながりにふれる不思議。地域の人に出会う驚き。地域全体で学校を応援し、地域を賑やかにする食農教育実践誌。

## 最新号

実感！生きている土の世界

「43号 2005年9月号」目に見えない菌や微生物の働きを「実感」する工夫。そこから学校園や身近な自然を豊かにする知恵も生まれてくる。

## バックナンバー

42号 ビオトープ田んぼづくり  
41号 食の総学習 どう立ち上げる？  
40号 食育のすすめ方  
39号 ホームページ活用術  
38号 ふるさとを育てる  
37号 農家に学ぶ「いのちの授業」

## 食文化活動

年2回 定価400円  
年間購読料800円



★地域に根ざす食育の活動交流誌。食を軸に、領域を越えた健康・福祉・教育の地域連携活動を推進。A5判

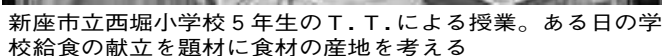
## 農文協

2005年3月号

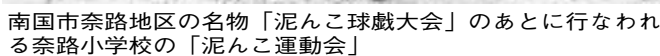
地域に根ざした食育コンクール2004

食育実践活動 受賞事例集 農林水産省

の提唱で優良な食育実践活動を顕彰するコンクール。2004年度の受賞結果と活動内容の紹介。



て、子どもたちに伝えたいことから献立を考えていくの風通しのよい関係をつくることが大切ではないか。



これらの活動では、ことさら子どもたちのためのメの技術を学ぶ。PTAが焼いた炭を子どもたちが切って箱詰めし、販売までしている。その売上代金は支笏湖小学校との交流学習の資金となる。

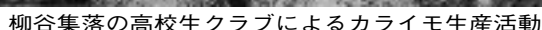
中を子どもたちに見せる」ことが大事ではないだろうか。元氣な大人の姿を見れば子どもたちも元氣にな

(次頁に続く)

いのちを育む驚き・喜び、食べる楽しさ  
一農と食の体験を学びに深める総合的学習  
絵本。栽培・飼育、料理、加工、工芸  
から歴史や文化誌までイラストでわかり  
やすく描く。●A B判・上製、各36頁  
学校図書館出版特別賞受賞  
産経児童出版文化賞推薦（土の絵本）

そだてて  
あそぼう

# 学校を核にして地域が元気になる



ターをつくる資金にもなった。柳谷は豚や牛などの畜産農家が多く、悪臭に悩まされていたが、土着菌入りの飼料を家畜に与えると糞のにおいがしなくなった。土着菌入りの堆肥が安全で健康な作物づくりに役立っている。そして、土着菌入り堆肥を使って無農薬栽培したカイロモを原料にオリ

高畠町立和田小学校での実践『食農教育』二〇〇四年三月号／田揚江里さんの粕江市立伯江第二小学校での実践『食農教育』二〇〇四年五月号／猪瀬里美さんの前任校・埼玉県新座市石神小学校での実践『食農教育』二〇〇四年四月増刊号／川村一成さんの高知県南国市奈路地区での実践『食農教

▼公民館長の立場から  
高校生のクライモ栽培が  
地域づくりの起爆剤に  
鹿児島県串良町・柳谷自治公民館長 豊重 哲郎

り、地域に自信と誇りをもつようになる。

奈路小学校の今年度の見域として、小規模特認校制

児童数は三六人まで増えた。度が認められ、校区外から一四人の児童を受け入れて

もらい、高校生クラブの子  
 どもたちに読ませて有線放  
 送で伝えている。地域への  
 愛着は一人ひとりの存在の  
 認め合いから生まれる。柳  
 谷集落に住む三〇〇人の名  
 前を子どもも大人も確認し  
 あうようにしている。それ  
 てたとえ柳谷を離れても、  
 いつも柳谷のことを思う人  
 が育っていく。

【もっと詳しく知りたい方へ】これらの五つの実践については、『食農教育』誌等に詳しく紹介されています。

伊澤良治さんの前任校・

高島町立和田小学校での実践「食農教育」二〇〇四年三月号／田揚江里さんの狛江市立狛江第二小学校での実践「食農教育」二〇〇四年五月号／猪瀬里美さんの前任校・埼玉県新座市石神小学校での実践「食農教育」二〇〇四年四月増刊号／川村一成さんの高知県南国市奈路地区での実践「食農教育」二〇〇四年九月号／豊重哲郎さんの鹿児島県串良町柳谷集落での実践「農村文化運動」一七五号「むらづくり」と地域農業の組織革新」

つくってあそぼう

AB判、各36頁、小中  
以上向け、各189円00  
甲、揃価189円00甲、  
①とうふ②なつと③  
みそ④もも⑤そば⑥  
ウズッキーム⑦チーズ  
⑧ソーセージ⑨ジャン  
パン

もの絵本

めそぼう